











農業委員および農地利用最適化推進委員（推進委員）を紹介します

中野地区				日野地区		延徳地区		
農業委員		推進委員		農業委員	推進委員	農業委員	推進委員	
								
滝澤 君雄 26-2596 農政部会長	本多千恵子 26-5301 振興部会	中村幸次郎 22-6688 会長代理	宮川 豊 23-3160 振興部会	中沢 光昭 26-4812 振興部会	滝沢 昇 26-7532 農政部会	上原 正幸 26-7791 農政部会	郷道 修弘 26-4737 農政部会	原 栄二 24-5172 振興部会

平野地区				高丘地区				長丘地区	
農業委員		推進委員		農業委員		推進委員		農業委員	推進委員
									
小林 宏和 26-2046 農地部会	長島 政弘 26-5165 農地部会	関谷 和幸 38-1407 農地部会	藤澤 昭雄 26-2268 農地部会	浅沼 富夫 26-3795 農政部会	金井 光正 080-5145-9494 農地部会長	今井 晃 26-4980 農地部会	樋口 秀彦 22-4530 農地部会	川島 正夫 26-2694 農地部会	武田 守弘 26-3631 振興部会











【第56号】

農業委員会だより

問 農業委員会事務局（内409）

農地の売買・貸借・転用などのご相談は、地元の農業委員または推進委員へご連絡を！

平岡地区		科野地区				倭地区		
農業委員	推進委員	農業委員	推進委員		農業委員	推進委員		
								
武田 信友 26-3868 振興部会	佐野 啓明 22-5379 振興部会	徳武 秀久 26-3808 振興部会	佐藤 忠一 22-3180 振興部会長	浅野 清 26-4822 農政部会	渡辺 富男 22-3445 振興部会	佐々木 福吉 26-8054 農地部会	池田 信一 26-8936 農地部会	山田 一茂 26-8430 振興部会代理

豊田地区									
農業委員					推進委員				
									
宮澤 厚子 38-2826 農地部会	大内 一人 38-3327 農地部会	神田 茂員 38-2464 農政部会	藤田 一和 38-2650 農政部会	清野 信之 38-2013 会長	白井 信幸 38-2137 農地部会代理	中島 守成 38-3663 農政部会代理	藤岡 勇 38-2086 農政部会	傳田 齊 38-3561 農政部会	傳田 齊 38-3561 農政部会



全国農業新聞は、農業委員会系統組織が発行する農業総合専門紙です。農政の動きをはじめ、農業技術や税制解説ほか経営・流通の最新情報などが満載です。購読については、お近くの農業委員、農地利用最適化推進員または農業委員会事務局までお申し込みください。

一人ひとりの農業者を応援する
農業者年金

農業者の老後の備えは国民年金プラス農業者年金が基本です。農業者年金のご相談や加入の申し込みなどは農業委員会事務局までお申し込みください。



各部会の紹介

農地部会 農地法の指導徹底、農地パトロールの実施、遊休荒廃農地の解消を目指した活動を行っています。

農政部会 行政との農政懇談会、農業者年金加入促進、全国農業新聞の普及推進を行っています。

振興部会 新規就農者の支援、遊休荒廃農地を活用しそばやカボチャを生産、JAと荒廃地対策の意見交換会を行っています。

新年のご挨拶

会長 清野 信之 きよの のぶゆき

皆さまには、輝かしい新年をお迎えることとお喜び申し上げます。昨年は、度重なる台風の襲来により残念ながら農作物に甚大な被害が出てしまいました。被害に遭われた方々には心よりお見舞い申し上げます。

さて、当委員会は、昨年4月より、農業委員（20人）と農地利用最適化推進委員（17人）が選任され、新たな農業委員会制度に移行しました。

この制度改正により委員に課せられた責務は多大であります。特に重要視されている、農地利用最適化に向けた取り組みは地域農業の未来像まで考え、それぞれの地域の特色・特性を考慮しながら地域の担い手農業者を確保して、農地の集約・集積を行い地域農業の維持・発展に結び付けていく必要があります。

そして人・農地プランはその最初の地域農業の姿を考える、文字どおりこれからの地域農業のプランニングです。農業者は元より、市、農業委員会、地元区長会、JA、農家組合、各種団体などの関係する全ての方々に地域農業のこれからの姿を考えていかなければなりません。

当委員会としても、新制度発足後、間もないこともあり不慣れな点もありますが、全委員一丸となり皆さま方と

ともに強力に農地利用の最適化に向けた取り組みを推進してゆく所存であります。今後とも倍旧のご支援ご厚情を賜りますようお願い申し上げます。結びに本年が皆さまにとりまして、実り多き年となりますことをご祈念申し上げます。新年の挨拶にさせていただきます。

長野県農業委員会

大会に参加して

滝澤 君雄 たきざわ きみお

第3回長野県農業委員会大会は「農業委員・推進委員が一体となって農業・農村の持続的発展に全力で取り組もう」をスローガンに昨年11月7日、松本市で開催されました。

大会は小島誠さん（長野市農業委員会会長）を大会運営委員長に、県内77市町村の農業委員・農地利用最適化推進員と関係者約1500人が参加。運営委員会報告で、委員長は「農地利用最適化の推進に向け、担い手への農地集積集約化活動の促進に5年先を見据えた取り組みをお願いしたい」と話され、来賓祝辞では阿部知事が「未来に向けた新しい農業の振興、安心して暮らせる長野県農業の発展に努めていきたい」と述べられました。

議事に進み、第一号議案では、担い手への農地集積・集約化の支援強化、遊休農地解消対策など農地利用の最適

化に向けた取り組み強化に関する要請決議を行いました。

第二号議案では、地域の農地利用の最適化を推進し、将来に向け農地が生かし守られていくことを目的とし、県をはじめ関係五団体がさらなる連携強化を図り「人・農地プラン」充実支援と農地中間管理事業の積極的な活用による担い手への農地集積を加速させていく取組を申し合わせ決議しました。

講演会では「農地利用の最適化の実現に向けた農業委員会の役割」という演題で、東京大学大学院教授の安藤光義さんの講演を拝聴。さまざまな補助事業の光は、一つひとつは小さな光でも、集落・行政・地域の意思というレンズを通して、一つの方向に集めさえすれば地域を変えろという火を起こすことができると話していただき、最後には「県内の状況は多様性に富んでいる。自分たちの地域に合った活動を考えて展開してほしい」と話されておりました。

研修視察

川島 正夫 かわしま まさお

10月17、18日の2日間の日程で農業委員および推進委員、事務局を含め総勢30人で北陸方面へ研修視察に行きました。今回の視察では、少子高齢化などで耕作できない遊休荒廃農地に企業

が参入し一定の成果を上げている、富山県と石川県の2つのファームの実態を見ることができました。

最初の視察先、富山県の氷見ワインでは、かつて耕作放棄地であった高地にある5畝の広い農地でピノ・ノワールという品種のぶどうが育てられていました。収穫されたぶどうは醸造所で発酵させてワインとなり、ボトル300本分の量が入る樽に保存され、醸造所にその樽がたくさん並んでいます。ちなみにボトル一本の値段は3000円とのことでした。次に石川県の能登島にある「ビタミンちくわ」でお馴染みのスギヨファームを視察。こちらもかつてはその約半分が耕作放棄地であった延べ60畝の農地を耕作されている中で、キャベツ畑を中心に視察。主にカット野菜として販売しているそうですが、かまぼこなどの材料としても使用しているとのことでした。今回の研修視察を通し改めて農業委員として中野市の耕作放棄地となっている農地を再生できるように頑張っていきたいと感じました。



(上) スギヨファームでキャベツ畑の視察。
(下) 氷見ワインの醸造所。どちらも耕作放棄地だった土地を活用。一定の成果を上げている。